

2025 年度 10・20 / 前期

京都芸術大学 授業改善アンケート

各学科・センターから学生のみなさんへのフィードバック・コメント

美術工芸学科（アートプロデュース学科・歴史遺産学科含む）

貴重なご意見をありがとうございました。皆さんの声は、これからの教育をより良くしていくための大切な指針となります。それらを真摯に受け止め、今後どのように改善していくか、お伝えしたいと思います。

まず、演習科目では、皆さんの主体的な学びが数値に表れており、教員一同、大変嬉しく思っています。グループワーク、フィールドワークといった双方向的な取り組みが、皆さんの成長実感につながっていると感じました。また一方で、制作や研究を行っていく上での学修環境の課題も見つかり、できる限り対策を講じていきたいと考えています。

また、大人数オンライン講義科目では、能動的な学習態度が低調であるという課題が見えてきました。一方的になりがちな授業形式が、学びへの意欲に影響していると考えられ、この状況を改善するため、以下の二つの対応策を講じていきます。

第一に、改めて学ぶべき知識を見直し、授業の目的をより明確にします。特に必修科目については、より一層内容を厳選していきます。

第二に、双方向的な授業形式を積極的に導入し、皆さんが「学んでいる」という実感をより強く得られるよう工夫します。教員間で情報を共有し、皆さんが授業に積極的に参加したくなるような、新しい授業設計に挑戦していきます。

これからも皆さんの声を反映し、より良い学びの環境を共に創り上げていきたいと考えていますので、今後ともご協力をお願いします。

キャラクターデザイン学科（マンガ学科含む）

授業アンケートにおいて、学生の皆さんからの貴重なご意見をいただきありがとうございました。教員間で情報を共有し、好奇心を刺激できるような授業内容に改善していくことはもちろん、教員自身が常に学び成長することを約束します。教育において昨日の正解は今日には正解でなくなることも多々あります。環境の変化を注視し、教員目線のみならず、学生の皆さんと共にそれぞれが多様な価値観や意見に耳を傾け認め合い、楽しく驚きにあふれた学びの場を一緒に作ってまいりましょう！

情報デザイン学科

今回の授業改善アンケートでは、特に理解度や教員のフィードバックが高く評価され、授業を通じて成長を実感できたとの回答が多数見られました。

一方で、課題量や難易度が大きい、進行や時間配分が不十分、合評や評価の方法にばらつきがある、といった改善要望もいただきました。これらについては、課題設計や進行管理を見直し、授業冒頭で目標や流れを明確に示すことで、学修の見通しを持てるよう改善していきます。

また、複数教員が担当する授業では、教員間での情報共有を一層徹底し、進行や評価基準のばらつきを抑えるよう連携を強化します。合評についても、時間配分やコメント方法を再検討し、誰もが安心して意見を交わせる建設的な場となるよう工夫を重ねます。

これらの取り組みを通じて、皆さんが主体的に挑戦し、自らの成長を確かに実感できるよう、学科として引き続き努力していきます。授業改善アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

プロダクトデザイン学科（クロステックデザインコース含む）

今回の回答では、前回と比較して授業設計・運営に関して懸念の声は全般減少したと感じていますが、「時間が足りない」との声は変わらず一定数あり、理解度・習熟度に関する各個人への配慮に加えて授業進行への工夫が必要だったと受け止めています。各授業での内容・進め方・様々な工夫・熱意に対するポジティブなコメントも多く寄せられていることを考えると、昨年度回答結果同様、昨年度後期で感じた学生個々への対応・配慮の課題・不安に答える姿勢・努力は理解してもらえつつあると感じています。しかしながら、様々な学生が居る限り不安・疑問を表すコメントは確実に存在し、個々の理解・進捗を丁寧に確認し、すべての学生に対して学修の深化を進める授業対応に引き続き配慮していきたいと思います。

一方で、一部授業に対して不安・疑問のコメントがあったことは真摯に受け止めています。教員個別に状況を確認し、対応を指示しています。特に3年生という学びの集大成を求められ、就活に臨む難しい時期に於ける授業の位置づけには細心の注意を払っていますが、学生からの声を真摯に受け止め学びの環境を整えていきたいと思います。

アンケートへの回答は、授業の高質化に向けた大事なインプットとなります。学生の声を受け止め、学修環境、授業内容をより良くしていきたいと思いますので、アンケート回答の機会を積極的に活用し、率直な意見を聞かせてもらえることを望みます。

空間演出デザイン学科

学生の皆さん、授業改善アンケートに答えていただきありがとうございます。

1年生は、はじめての専門デザインで自分の学びができ、2年生は個人の実力を多角的に高め、3年生は社会実装で成果を上げ、4年生は卒業制作のテーマ研究で主体的に外部調査を行って、新たな独自視点での構想ができました。これらはすべて、みなさんの毎日の努力の素晴らしい成果としてあるので、この調子で後期もしっかりと学びを進めていってください！

授業改善アンケートでは、授業が楽しかったことや感謝のことば、的確なアドバイスで学修意欲につながったこと、フィードバックで理解が深まったこと、質問しやすい環境で安心できたこと、

教材があつて授業外学修が進みやすかつたことなど、授業に対する前向きなことをたくさんもらつて本当にうれしく読ませてもらいました。1 回生のグループワークでは、自分と他者の意見の違いを尊重して話し合つた、という意見がたくさんあり、本質を学べていて本当にすばらしいと思いました。ありがとうございます！

皆さんからもらった改善点では、工房は授業外学修で、午前午後の空いている時間を活用してもらつと同時に、時間割の配列も検討していくこと、授業内環境を静かにしていくこと、試験内容の公開をわかりやすくすること、授業連絡を早めに行ふこと、などよりよい授業となるよう取り組んでいきます。

新学期も新しい挑戦をがんばっていきましょう！

環境デザイン学科

学生からの要望コメントは大きく以下の 4 つにまとめられるだろう。

- 1) 教員によって、言つてること、アドバイスが違ふ。
 - 2) 講評が短い、少ない。
 - 3) 模型材料代などお金がかかりすぎる。
 - 4) 作業の進め方や段取りについて、あるいは詳細図の描き方等について、より詳しい説明がほしい。
- 1) に関しては、たびたび寄せられる意見なので、授業担当教員で事前に方向性の確認などを欠かさず行いたい。授業中に他教員が違ふことを言っていたらすかさず修正や摺り合わせを行う場面もあるが、授業日ごとに事前事後で共有が必要だろう。また 2 年生で FD 研修に参加した学生からは、演習授業前にこの件を含むアナウンスを教室で学生たちで共有し、教員の言うことはある程度違ふ場合もあるので学生の方で取舍選択する、ということが確認されてはいた。
- 2) に関しては、講評会時間が限られている中では、口頭コメントが聞けなかつた教員からはせめて文字によるコメントシートを読みたい、との要望があり、早速 20 で実行させていただいた。今後こういった方策をとっていきたい。また課題の期間が短すぎる、という要望に関しては、そのコメントシート内の「長期休暇の前に課題説明を行いアイデアを持った状態で初回を迎える」という提案が事前学修をうまく組み込みむという意味でもとても考慮に値するので、今後検討していきたい。クラスルームを利用すれば初回までにやっておく課題なども設定できそうだ。
- 3) に関しては、次年度から、10 冒頭に、一定の模型材料を支給することも検討している。また卒業制作や OC など余つた材料を効果的にリサイクルすることも徹底したい。
- 4) 動画教材だけでは物足りない、という意見があつたが、効率の面と、手元で繰り返し視聴できるという意味で、1 年生授業では積極的に動画教材を使用している。しかし、やはりライブで教員がやってみせる、ということのインパクトも大きいだろうから、動画任せにしないよう心掛けたい。また詳細図の描き方の説明、全体の作業工程の説明などは、丁寧に行ふようにしたい。

映画学科

2025 年度 10・20 の「授業改善アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。学科では、皆さんから寄せられた貴重な回答や意見をもとに、授業をより良いもの、より実りのあるものにしていくための意見交換や話し合いの機会を設けています。2024 年度入学生に始まる新カリキュラムでは、授業設計がそれ以前と少なからず変わり、たとえば「短編演習 1」では 10 を集中して撮影に専念する期間に設定するため他に授業を置かず、20 をポスプロに当てさせてもらいました。私たちとしては新しいチャレンジングな試みでしたが、完成した成果物やアンケート結果を見る限り、皆さんそれぞれにとっても意義のある挑戦になったと思います。新カリでの初年次前期の科目は、映画のさまざまな領域を体験することで、後期以降に自分が専攻したい領域を見つけることを目指す内容ですが、自分の学びたいことだけを学びたいといった意見もほんの一部で見られました。私たちの考え方がうまく伝わっていなかったとすれば、そこは反省しながら、今後も機会を見つけてはカリキュラムや授業の方針を丁寧に説明するなどコミュニケーションをとっていきたいと思います。映画作りは「正解」のない試みですが、映画をいかに「教育する / 学ぶ」かも同様であると考えます。今後も学生と教職員のあいだで自由に意見が交換できる環境を醸成しながら、より良い映画学科を目指します。引き続き、ご協力いただけると幸いです！

舞台芸術学科

皆さん、授業改善アンケートでは、設問回答また貴重なコメントの記述をありがとうございました。設問への回答結果で気になったのは、多くの専門科目において Q8 の「到達目標に対する自己評価」が低い結果となっていることです。「多くの学生が到達目標を達成した」と評価している各科目の担当教員と皆さんとの間で認識のズレがあるようです。私たち教員は皆さんのこの認識を受け止めて、皆さんが授業での成果をより肯定的に受け止めて自信に繋げていける授業を展開していきます！各科目に関するたくさんのポジティブ・コメント、ありがとうございました。皆さんのフィードバックを励みに、さらに「履修して良かった！」と感じて頂ける授業を実施していきます。そしてまた皆さんからの各科目に関する批評・批判も真摯に受け止め、改善に取り組みます。課題の説明や期末テストの運用方法が適切でなかったといった事項に関しても必ず改善することをお約束します。

舞台芸術学科の教員一同、皆さん一人一人が成長を実感できる質の高い授業の提供を目指して日々努力していきます。一緒に頑張りましょう！

文芸表現学科

学生から寄せられたフリーコメントにはすべて目を通しました。多くのご意見をありがとうございます。なかでも好意的な声を多くいただけたことが、教員にとっては励みになりました。

とくに学生参画型 FD 研修で、話題となる「フィードバックの充実」について、当学科のフリー

コメントでは「フィードバックが丁寧で、授業外にも時間を割いてくれた」「作者の意図を汲み取ったうえでの改善策を提示してくれた」など好意的な声が多く、安堵したと同時に、あらためてフィードバックの大切さを実感しました。今後も学生の皆さんに対して丁寧で有益なフィードバックができるよう、学科教員一丸となって精進します。

しかし、その一方で、一部授業における教員側のスケジュール管理ミスや授業進行の強引さ、課題指示の不明瞭さ、レクチャーの曖昧さ、成績評価基準についての疑義など、胸の痛い手厳しいコメントもいくつかあり、それらは学科会議の席で議事として取り上げ、改善策について議論を重ねました。

今後については、皆さんからのコメントを真摯に受け止め、授業によっては具体的な改善策を講じるなどして、適切なアップデートをしていきます。

こども芸術学科

2025 年度前期学科専門科目で、意欲的に取り組んでくれたことに感謝します。

みなさんが回答してくれた授業改善アンケートにて、複数科目で「課題（取り組む際の自由度や余白の設定、量、タイミング、スケジュール、事前事後学修、課題に取り組む上での資料のあり方）」についてのコメントをいただきました。授業設計上、課題に取り組む際の自由度や余白をどのように持たせ、また、どれくらいの量をどれくらいの期間で課すのか、そして、主となる課題と事前事後学修との連関、授業全体の流れについては、みなさんが主体的に学ぶことができる環境を授業という場を通じて提供する上で、重要な要素だと理解しています。

今回コメントのあった科目では、到達目標と課題の意図との連関を、授業のなかでじっくりと理解してもらう時間を設計すること、また、みなさんが休んでしまうことなく意欲的に取り組むことができる設計、それら課題に取り組む際の資料の質についても各科目での改善を重ねていきます。

特に非常勤教員との連携においては、普段異なる大学での授業を担当されている先生方も多く、本学科の学生のみなさんの特徴や日々の学びの様子を適切に情報共有図ることが、みなさんの学びの質に資する取り組みだと感じています。

また課題量については、科目内での改善はもちろん、クォーター間、クォーター内での連続性を学科教員で再検討し、科目ごとで極端なギャップが生じることなく、学びの見通しを立てやすい環境の改善に取り組みます。

授業内でのワークシートについては、授業内容、取り組んでいただく時間に応じて、ワークシートの適切な設計や活用がなされるよう、改善と運用の質を深めていきます。

学外演習に関しては、連携する現場との適切な事前の打ち合わせや準備を徹底すること、また、学外演習での学びのポイントがどこにあるのか、適切にみなさんへ伝えた上で、授業内での学びを安心して進めていただけるよう、改善していきます。

今後も、みなさんの学科での学びがより充実したものとなるよう、最大限努めます。

芸術教養センター

コメント内に進行の速さや課題数、レポートの文字数などの指摘があることを確認しています。

また、授業資料が復習に役立ったなど、資料配布への好意的コメントをいただいています。課題数や授業の難易度、資料を配布するか否かについては各教員の考えに委ねていますが、事前事後学修の内容、方法なども含めて、主体的に学修する場となるよう引き続き検討を進め、担当教員への共有を図ります。

英語科目に関しては、「英語コミュニケーション3・4」（中級）と「Academic English 1・2」（上級）において、英語を母国語あるいは公用語として使用してきた留学生が多く受講している状況となっており、受講者間の英語力の格差が顕著に出ています。今後はより客観的な英語レベル分けが可能となるクラス編成に改善したいと思います。

社会実装プロジェクトにおいては、皆さんからの声をもとに、以下の改善を図りたいと思います。

- ・グループ分けについての提案ですが、作業内容によって配慮して改善します。
- ・シラバスに記載している内容の確認と事前事後学修についての理解を求めます。
- ・連絡ツールをスラックに統一してMSからの連絡時間も遵守するように指導します。
- ・事前にマネジメント学生と制作メンバーとの役割を全体にしっかりお伝えするようにします。

また、芸教科目に対して抽選漏れによって希望する科目が受講できないといった声もありました。この点に関してはクラス数を増やすなど改善を図っており、日本文化科目群など一部の科目を除いて、希望通りに受講してもらえるように授業を設計していきます。

資格支援センター

芸術教育資格支援センターの授業では、これまでのみなさんからのアンケート等にもあった要望にお応えして、とくに次の3点、①フィードバックの充実、②授業資料のペーパーレス化（かつ事前ダウンロードを可能にすること）、③教員のITスキルアップ、に各担当教員が意識して取り組んでいるところです。今回のアンケートでは、①と②については一定の評価をいただいていることが分かりましたが、③についてはまだまだ至らない点がある、教員によって個人差があるとの指摘もありますので、これを個々の教員の問題とは捉えずに、センター全体でフォローしながら改善していきます。

また、一部授業において、課題発表から提出までの期間が短いとの指摘がありました。これについては他の授業との課題時期が重なるかどうかやボリューム等も検討した結果、なるべく早めの課題発表をすることで準備期間を長くとるように教員に依頼しました。

例えば、以前のアンケートに実際にあった「グループワークは嫌だからやめてほしい」といった、お応えすることができない場合もありますが（教員も学芸員もチームでの仕事がたくさんありますので嫌いだから避けるというわけにはいきません）、みなさんからのご要望には必ず目を通して、ときには教員間で議論をして、改善ができるかどうかを検討しています。これからもアンケートへの積極的な参加を通して、よりよい授業づくりにご協力をお願いします。